

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

オオタバコガの発生状況と防除対策（技術情報5号）について（送付）

記

1 概要

オオタバコガはナス、トマト、キャベツ、レタス、キク等多くの作物を加害する害虫である。本種の発生は例年9～10月に多くなるが、平成15年は6～8月に平坦地の夏秋ナスやキク、また高冷地の夏秋トマトやキャベツで被害が多くみられた。

現在、平坦地のフェロモンラップへの誘殺数が平成15年とほぼ同じ水準で推移しており、今後夏秋野菜、花き類に被害を与える可能性があるため本種の発生に十分注意して防除を行う。

2 オオタバコガの発生状況

- (1) 合志町（生産環境研究所）のフェロモンラップの誘殺数は、6月6半旬から急増し、7月1半旬にピークとなった。この2半旬の誘殺数は159頭で平年より多く、平成15年と同程度の誘殺数となっている（平年：52.6頭、平成15年：200頭）。
- (2) 鏡町（い業研究所）のフェロモンラップの7月1半旬から2半旬の誘殺数は、7.4頭（平年4.5頭）と平年に比べやや多くなっている。
- (3) 山都町のフェロモンラップへの6月5半旬までの誘殺は平成15年に比べると少ない。
- (4) 今後の気象については、福岡管区气象台が6月23日に発表した九州北部地方の3ヶ月予報によると、7～9月の気温は平年並が高く、降水量は平年並の予想である。このため、今後は、オオタバコガの発生量の増加や高温による発育促進から発生世代数の増加等が考えられ、本種による被害の拡大及び長期化が懸念される。

3 防除対策

- (1) 本害虫は連続的に発生するため、圃場内をよく観察し早期発見に努める。
- (2) 老齢幼虫になると薬剤の殺虫効果が低下する。早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- (3) 果菜類では、幼虫が果実の中に食い入っている場合があるため、被害果は早期に摘果、処分し、その後の発生を抑制する。また、摘芯、摘果した腋芽や花蕾等は、本害虫の卵や幼虫がついている場合もあるため、ほ場内や周辺に放置しない。
- (4) 施設栽培では施設開口部を防虫ネット（4mm目以下）で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- (5) 農薬の使用にあたっては、必ず農薬ごとに定められた使用基準を守り、安全な農産物の生産に努める。

図1 フェロモントラップの誘殺状況(合志町)

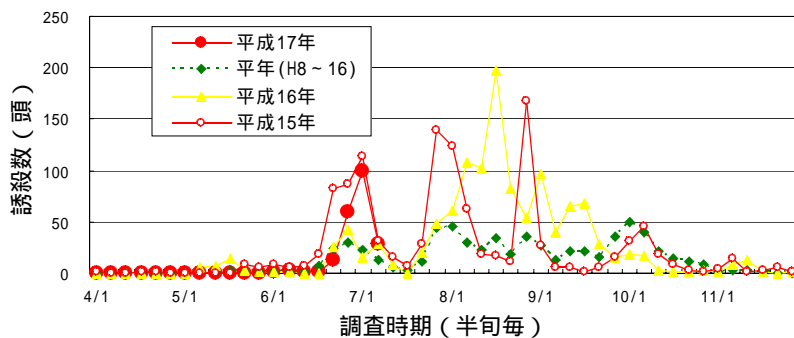


図2 フェロモントラップの誘殺状況(鏡町)

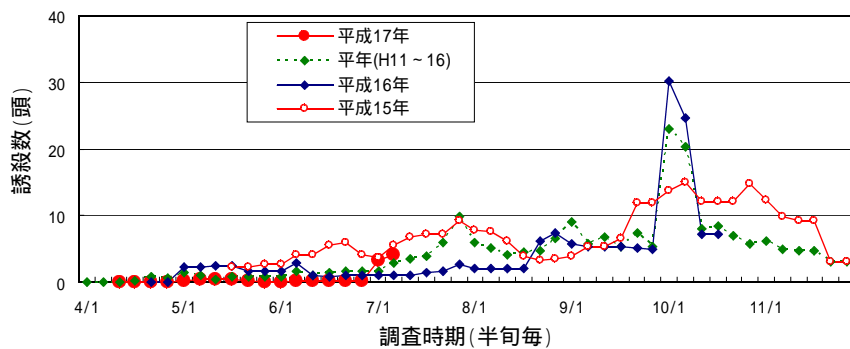
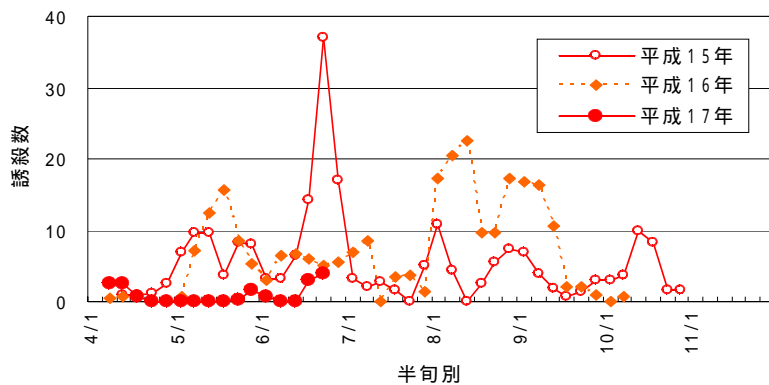


図3 フェロモントラップの誘殺状況(山都町)



なお、フェロモントラップの最新データは病害虫防除所のホームページ上 (<http://www.jpnp.ne.jp/kumamoto/>) で公開しているので参考にしてください。